

◇ 清 水 均

○議長（清水満） 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

発言順位 5 番、議席番号 1 番、清水均議員を指名します。清水議員。

〔1 番 清水均 登壇〕

○1 番（清水均） 議席番号 1、清水均です。通告に従いまして質問させていただきます。飯綱町の孤立高齢者の実態とその対処についてお伺いいたします。

11 月上旬の信濃毎日新聞に孤立高齢者の深刻な問題の記事が掲載されていました。私はそれを読んで、この問題の重大さを感じました。独り暮らしで人付き合いが少なく、社会的に孤立した高齢者は、そうでない人に比べて介護が必要な状態になったり、死亡したりするリスクが 1.7 倍高いとの調査結果を筑波大の調査チームがまとめました。

研究チームは、滋賀県の米原市と協力し、同市内の 65 歳以上の人を対象に調査、有効回答が得られた 6,603 人について、2011 年度から 6 年間、要介護認定を受けたり、死亡したりする割合の追跡調査をしました。

社会的なつながりが健康に与える影響を調べるため、1 として近所付き合いがない。2 として独居。3 として老人会や地域の祭りなど、社会活動への参加がない。4 として経済的に困窮の 4 項目の指標を設定いたしました。そのうち 2 項目以上に当てはまる人は、6 年間のうち半数が要介護や死亡したりして、4 項目に当てはまらない方の 1.7 倍割合が高かったようです。

社会的な孤立に加え、運動、認知機能など、心身の活力が低下したフレイルという状態になった場合、要介護や死亡の発生率はそうでない人に比べ 2.3 倍と、更にリスクが高まったようです。

研究チームの山田実筑波大准教授は、介護予防での運動の予防は一般的に行われているが、例えば、みんなで話し合おうといった社会的な交流を促す取組は重要だと指摘しております。

そこで、飯綱町の高齢者の実態についてでございますが、平成 24 年の人口 1 万 2,100 人に対

し、65歳以上の人口は3,791人でした。高齢化率は31.3パーセント。平成29年には人口1万1,328人で、65歳以上は4,171人、高齢化率36.8パーセント。5年で5.5パーセント上昇しております。これから先まだまだ上昇傾向になると思われま

す。特に私が住んでいる福井団地の将来人口値は、平成22年を100とすれば、10年後の平成32年には96パーセント。42年後には約半分の52パーセントと社人研は予想しております。福井団地の65歳以上の人口率は、平成24年は18パーセントであったのですが、平成30年の10月末では30パーセント。この数字はこれからも急上昇すると思われま

す。そこで、この問題をめぐって細部にわたりお伺いいたします。先ほど同僚議員が質問しましたが、ここに書いてある括弧1ですが、飯綱町において高齢者の孤立問題について、どう受け止め考えていますか。実態を把握しているでしょうか。町長と担当課長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 実態の調査の報告については担当の課長から申し上げますけれども、もう高齢化率が36パーセントというような極めて厳しい、正しく3人に1人が65歳以上という年齢構成になってきました。

2025年問題を間もなく控え、非常に医療、福祉等を中心に大変な時代を迎えているという認識の上に立って、先日、長野市、松本市の両市長が、宣言的に75歳以上を老年人口にしようということで提唱されましたけれども、やはり何といても健康で長寿な世界を構築していかなければならないと思っています。

そんな意味で、私は日本一の農業の中に、農業というものがどのぐらい健康に役立つかということ、是非、実証してPRをしていきたい。田植をやらせてもらえば、隣のうちの稲より自分のうちの稲が少し進んでいる。また分けつが多い。隣のうちのりんごより自分のりんごの方が今年は色づきが良かった。また大きくなった。何となく気持ちの良いものでございます。自分の作ったものほどおいしく感じるものはございません。是非、そのようなもろもろのことを踏まえて、この高齢者対策に全力で当たっていき

福井団地のお話ができましたけれども、今、パワリハ等々で男性の方の参加をいただいているという、うれしい話も聞いてございますけれど、何といてもあの地域にはいろいろな能力を持った皆さんがいらっしゃいます。語学であり、囲碁であり、または学習的な意味での高い能力をお持ちの方いらっしゃいます。こういう皆さんの知恵、能力をお借りするとともに、そちらの皆さんの大きな存在感、生きがいにもつながるようなことも含めて考えていきたいと思っていますので、よろしくご協力をいただきたいと思います。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えします。数値的なものですが、孤立問題については独居だからといって孤立ということも言えませんので、今までのアンケート調査の中で把握した数字でお答えしたいと思います。

クロス集計と言いまして、年齢層で見えていない過去の計画もございまして、順番追ってお願いしたいと思いますが、20代から70代以上の調査で福祉計画策定時でございまして、近所付き合いがないという質問をさせていただきまして、これにつきましては普段、隣近所とどのくらいお付き合いをしていますかという問いですが、ほとんど付き合いがないが3パーセントでございました。

また、現在策定中の自殺対策計画ですが、これはアンケートをクロス集計で作っていますので、今後、高齢者の数字としてまた発表できるかと思えます。アンケートの問いで、心の健康に関する意識調査でご近所の方とどの程度の付き合いをしていますかとの問いがございまして、

1.9パーセントの方が全くしていないというお答えでした。

また、介護保険のアンケート調査でございまして、このときには65歳以上の実態調査で行っております。第8期の高齢者福祉計画ですが、この調査で近所の方とどの程度お付き合いをしていますかという問いですが、要支援、要介護の方で15.6パーセントの方が付き合いはないという回答でございました。

また、独居の方についてですが、行政報告書において毎年提示してございまして、過去6年

間について記載してございます。そちらで独居の人数が把握できるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

3番の老人会や地域の祭りなど、社会活動への参加がないということですが、このアンケートにつきましては、福祉計画策定時のアンケート調査で行っております。参加していないとお答えの方は10パーセントでございました。

また、同じアンケートですが、高齢者関係のアンケート事例は、生き生きした地域作りへの参加意向で、参加したくないは39.6パーセントでございました。県全体では55.9パーセントであり、飯綱町は比較的、数値的には低い数値でございます。

飯綱町では是非参加したい、参加してもよいが合わせて60.4パーセントで、県全体では37.9パーセントの回答であることから、参加の意識は大変高い地域だとアンケート上は受け取れません。

4つ目の経済的な困窮については、現在、自殺対策計画を策定しております、その過程の数値でございますが、あなたのご家庭の家計の余裕をどのように感じていますかという問いがございます。全く余裕がない10パーセント、どちらかといえば余裕がない20パーセントという状態でした。今後、動向をまた見ながら検討したいと思えます。よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 先ほど長野市と松本市の市長の話がありましたが、テレビで見ましたが長野市長は73か74歳だと思いますが、通勤に1.5キロを走っていく。そして、市の8階まで歩いていくらしいです。私は健康で長生きする宣言をしているからおっしゃっていました。町長もその辺を考えていただいて、平出から三本松まで。健康にだけは気を付けていただいております。

次に、括弧2の新聞による調査では、近所付き合いがない、その次、独居生活として把握している資料、町の社協によりますと、70歳以上は牟礼地区が191世帯、三水地区が131世帯、計322世帯、322人です。75歳以上は牟礼地区が103世帯、三水地区が82世帯、計185世帯、185人です。70歳以上は507人の独居がおります。その次、③として老人会や地域の祭りなど

に参加しない方が10パーセントあるようです。その次の経済的な困窮、これは先ほど説明してもらったからいいです。

この4つの視点から、飯綱町の実態を数字的に把握しているかということは先ほど全部言ってもらいましたが、ただ独居生活の70歳以上が全部で507人もいることについてどう感じますか。それと、老人会や地域の祭りなど、社会活動への参加が10パーセントもないと言われましたが、その辺についてお願いいたします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えします。独居の人数につきましては、行政報告書でも出ておりますし、社協さんの方では一人暮らし高齢者等昼食会（わらび会）の関係で人数的なものをつかんでおりますので、若干の違いはありますけれども、そのとおりでと思います。

それで、活動参加の意向についてですが、アンケート調査をいろいろしております。福祉計画であり、介護計画であり。県の調査に比べて参加意識は高いわけですが、なかなか参加するまでの過程でどうも参加率が低い数字が見られます。ということで、社協との話の中では活躍できるところをどうしたら参加いただけるのかということ、少し考えていきたいと打合せはしてございます。今後、民生委員さんと福祉推進委員さんを活用しまして、できるだけ独居の高齢者の方が社会参加できるような方法を考えていきたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次、括弧3になります。65歳以上の高齢者の生活及び労働実態はどう把握しているかについてですが、65歳以上の高齢者のうち、農業従事者や勤めている人など、心身共に健康な人はどのくらいいるでしょうか。町長か担当課長にお願いいたします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えいたします。心身の健康というところが少し数値的につかめないかもしれないわけですが、第8期の高齢者福祉計画、介護計画、先ほども申し上げまし

たが、その中でも、健康ですかというご質問させていただいております。

労働実態ですが、農業従事者につきましては、2015年の農林業センサスというものがございまして、65歳以上の農業従事者は町内男性553人、女性が529人、合計で1,082人という数値を把握しております。これは、農林業で生計を立てている人の数字であり、家庭菜園的な従事者は含まれておりません。また、同じく27年の国勢調査がございまして、この調査では、65歳以上3,975人に対する就業者人口は1,712人で43.05パーセントですが、うち農林業の従事者につきましては男性577人、女性468人、合計1,045人、26.29パーセントという数値でございます。

先ほど申しましたが、心身共に健康な状態かどうかというところまでは把握できませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次、②でございしますが、独り暮らし、高齢者等の交流事業を町の社協が年6回開催しているようですが、その対象者数を把握しているでしょうか。

また、年6回開催しているが、その対象者で1回も参加していない方は何人いるでしょうか。その参加していない理由を把握しているかどうか、町長にお伺ひいたします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えします。質問の事業の内容ですが、社会福祉協議会が開催している独り暮らし、高齢者の昼食会、わらび会ということであれば年6回、偶数月で開催しております。

昨年ですと、延べ304人の参加がございました。それと参加されない理由については、個々のご事情で参加されないと思われませんが、アンケート的なものはとっておりませんが、聞き取りでは、まだ現役で仕事をしていて忙しいとか好きじゃないなどの理由等ございました。お願ひいたします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） これについて、独居でどうしても出てこれられないような方がいるなど、そういうことは分からないでしょうか。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） この事業ですが、70歳以上の独居高齢者と75歳以上の高齢者世帯を対象とさせていただいておりますので、その皆さんにはお声掛けをしている状態です。お声掛けをしておりますが、参加が増えてこないという実態でございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次に③になりますが、区・組で取り組んでいるいきいきサロンについてでございますが、実際に取り組んでいる区・組の数。その対象者で全く参加されていない人はどのくらいおりますか。それと、参加者が増えていないがその理由をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えいたします。実際に取り組んでいる区・組の数でございますが、取組のある地区につきましては、行政区では三水地区で24、牟礼地区で16でございます。ただ、1地区に複数のサロンがあるところもございますので、開催会場としては47会場ございます。

次に、対象者で全く参加しない人はどのくらいいるのかということですが、各地区の65歳以上の人数は把握することはできるわけですが、いきいきサロン自体は自主的な活動でございますので強要するものでもありませんので、参加していない人の人数的な把握はしてございません。

また、参加者が増えていない理由はというご質問ですが、参加者が増えていない理由としては、農繁期は農作業等が忙しくて参加できないという声があることと、運営いただく人の世代交代がうまくいかなかったり、集まる人が固定化したため増えていかなかったりというお話を聞いてございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 今の集まる人が固定化されているについて、その中で集まらない人を引き出すことを区長や行政でお願いできればと思っております、この質問をしています。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 先ほども申したわけですが、自主的な活動ということで、皆さんの地域で運営いただいております。ある程度、話し合いとかには参画ができるわけですが、コーディネート的な役割は社協さんの方で、また地域に入って課題等解決に向けて携わりを持っていただくように進めていきたいと思っています。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次、括弧4になりますが、高齢者の社会的つながりを設けていく必要があるのではないかとというのが私の考えでございます。

①として、老人クラブのクラブ数や参加者を増やす必要があります。そのための対策を考えているか、町長と担当課長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。老人クラブ連合会は、それぞれ集落ごとに単位老人クラブ的なものがございましたが、どこの地域にも老人クラブがあったわけですが、役員のなり手がいない等々から大分数自体が減少している傾向にあることは間違いないと思います。

反面、具体的に申し上げれば普光寺地区のように非常に活発に活動されている老人クラブもございます。私もお呼ばれして、1年間の事業計画等々を拝見をいたしましたけれど、年2回程度の楽しい温泉旅行とか、または地域の神社の草刈り等々のボランティア活動とか、スポーツの振興というような、そういうものが大きな中身になっていると思います。

一番盛んにやっているところの特徴的な例を見ますと、男性の参加が非常に多い。ですから、敬老会にお邪魔しても非常に男性の皆さんの参加が多いです。何で男性が魅力をもって出掛け



て来てくれるのか。それぞれの分館の皆さんの取組や、その日の出し物に子供を出したり、お祭りを出したり、いろいろなことがあるのかと思いますけれども、男性の場合はスポーツをうまく使った集客みたいなことも一つのキーワードになっているのかと見てまいりましたけれども、やはり年に何回か顔を合わせる機会を持って地域の人たちと話すということは、非常に私は大事なことだと思いますもので、何とか魅力のある老人クラブの運営というものが本当にどういうものか、昔みたいに集まってお酒飲んで温泉へ行けばそれで満足ではなくて、もっといろいろな意味で知的なものを求めている人たちもけっこう多いのかと思います。先ほどの生涯教育の延長線上としても捉えて、町としてもメンバーを増員していくような働き掛けをしていきたいと思っています。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 老人クラブの事務局は社会福祉協議会に担っていただいておりますが、その会議においても連合会の会議とか開催される機会があると思います。そのような中で問題点、課題点を出していただいて、少しでも人数が増えるような対策を考えていただけたらと思っております。

ただ、老人クラブの団体につきましても自主的な組織ということで位置づけられておりますので、行政としましては国、地方自治体からの基準額ですが、補助金等での支出を行って支えていきたいと考えておりますので、行政としては今後その支援と社協さんの仲介による事業活動のアドバイスのなところで、また入っていけたらと思っております。よろしくお願いします。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 区長さんが来ておりますが、福井団地も今、いろいろ頑張っていただいて年何回かやっております。これには町長さんは来てもらってはいないけれども、その辺もまた見ていただければと思います。頑張っていますのでよろしくお願いします。

次に、いきいきサロンを全ての区・組に広げ、回数と参加者を増やすための対策を講じる必要があると思うが、町長と担当課長にお願いしたいと思っております。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） いきいきサロンも私どもの集落でも年4、5回開催して、ほとんどボランティアのお力を借りて、午後に集まって茶話会をやり、時としては久遠先生等々の演奏を聞くなど、いろいろ考えてもらっているようです。

例えば、平出にはあの中にバス停が五つ、六つあるくらいにうなぎの寝床みたいな所ですので、足の心配をしてあげないと参加の人数が増えないというなこともあって、送り迎えをしてあげるとか、そのようなことでやってきているようでございます。ただ、これもその時の役員さんが年何回かやれということですからずっとやってきているから、今年もボランティアの力を借りてやっていきたいというスタンスで続けてきている例が多いように感じます。もう1回、年配者の出番が来たくらいの位置づけで、例えばバスに人が乗らなくて空気運んでいると言うのであれば、今回はバスに乗ることについてみんなで何か話でもしようかとか、せつかく70歳以上は200円で長野駅まで行けるようになったから、今回のサロンは駅前の喫茶店でやるとか、そういう何かアイデアを出し合ってやらないと、前例に踏襲したというパターンであると魅力に欠けるのかなと思います。

そのような思いもありますけれど、これも地域の皆さんがどれだけ自分の地域の将来に対して憂いを持って、問題の解決に当たるかという意気込みの表れであろうとも思いますもので、そんな働き掛けを社協、また福祉の担当課とも進めるように今後も努力していきたいと思っています。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 事務局の社協ですが、魅力を探すような事業が展開できるように再度各地区を見ていただいて、またコーディネートしていきたいと考えています。

それと、まだできていない地区がございますが、戸数が少ない地区におきましては、区の枠を超えた事業展開ができないかどうか、社協と今、働き掛けをしているところです。今年に入

りまして、いきいきサロンは1地区増えている状態ではございますが、まだできていない地区につきましては、行政区の枠を超えて進められるように地区へ入ってコーディネートしていきたいと思っていますところでは。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 参考までに現在行っている1回当たりの出席人数が12.2人ということですが、先ほども話したように出てくる方は決まっているということになりますか。その辺をお願いできればと思います。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） 回数につきましては、各いきいきサロンによって各々違います。

こちらでつかんでいるのは延べ人数でしか見ていないわけですが、お話を聞く限りでは、会員が固定化されてきてしまっていて、新たな会員さんがグループに入りづらいというような課題が見えてきています。どうにか改善したいという話を社協としてしていますので、また各いきいきサロンに出向いてコーディネートしていきたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そういうことでお願いいたします。その次の④になりますが、孤立高齢者をゼロにするための取組を前進させるべきであります。私が主張したいのは、孤立高齢者を少なくすることで要介護等を減少させることにより、健康で長生きし、医療費の減少につながっていきます。そのための取組のために今までの質問をやってきたわけです。

将来の見通しとその対策を総合的に考えているか、これは町長にお伺いしたいと思います。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 将来における高齢者がどういう考えで人生を送っていくのかということ、人のことを考えるより、自分のことを考えてみますと、団体行動でみんなに付いて歩いているのは好きではないタイプのように自分は感じます。

いわゆる独り暮らし、独居の人をゼロにするというのは非常に難しいと思うわけですが、たまたま独りではいても、何かの時にはすぐ隣のAさんが助けに来てくれるとか、今の時代でするので携帯で即つながるようなシステムになっているとか、病気については、このボタンを押せば誰かが救急車に連絡をしてくれるというようなサービス、バックサービスの中での独り暮らしというのも決して今の時代では悪いことではないので、そういう生き方を選択する人もあるだろうし、多種多様な生き方に精いっぱい行政としては応えていくのが、これからの高齢者福祉だと思っています。

具体的にどういう多種多様な対応というものが求められるかは、その時代にもよるかと思いますが、基本的には一人の人を尊重してあげることでの福祉高齢者サービスを考えて取り組んでいきたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 通告には無いですが、独り暮らしの孤立高齢者の見回り隊として、11月の新聞に安否確認を新聞元売り店に依頼したとのことが出ておりました。個人宅に配られる配達員にはどんな通知をしているかということですが、町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 先日、いわゆる新聞店と提携を結びまして、新聞配達の中において気が付いたような点については町に報告をしていただくという協定を結びました。新聞ストップの連絡がないけれども、新聞受けがあふれるほどになってしまったなどです。

もう3年ぐらい前からですが、郵便局とやはり同じ提携をしております。私は特に日本という国の郵便業務は民営化されましたけれども、郵便局の方は非常に信頼性の高いものがございます。したがって、郵便局の方に声を掛けられても、不審な人に声を掛けられて怖い目にあったというイメージよりも、違ったイメージでお答えをいただけるのではないかと考えています。そのような提携をする中でケアをしてきているという状況です。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 新聞配達員にはどんな通知をしてもらっているか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 新聞配達員さんには新聞配達の店主が行う中身で、こちらへは異常な事に気が付いた場合には、配達員さんが販売店に連絡をするなり、配達員さんから直接するなり、協定の詳しい中身については忘れましたが、配達員さん自身にこちらからこうしてほしいというような指示は全くございません。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） どうして聞くかというと、そのように新聞に出たけれども私たちには何の連絡もないと言われました。新聞に出ただけで、新聞元請から新聞配達員には何の連絡もなくて対処しようがない。だから、新聞の元請さんに話して、配達員さんに話してもらいたいということです。そういうことでお願いいたします。

その次、引き籠もりの人には、メールやテレビ電話としてタブレットを使用して職員と顔を見ながら話す方法もあります。簡単に言えば、月払いの低価格で貸し出す方法も考えられるが、これについては担当課長お願いします。

○議長（清水満） 山浦保健福祉課長。

〔保健福祉課長 山浦克彦 登壇〕

○保健福祉課長（山浦克彦） お答えします。現在、独居高齢者で要望のあった方につきましては緊急通報装置で対応させていただいております。今のところ最新のメールですとか、タブレットについては考えていないところですが、経費的なものとご本人負担のこともありますので、少し考えてみたいと思います。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次に大きい2番でございますが、町有財産の有効活用について伺います。

福井団地内の町有地を帰省する家族等のための駐車場として活用できないかについてであり

ますが、団地出身者が飯綱町の実家に帰ってきても車の駐車する所がなく、駐車に苦労しています。中には団地から出ていきたいという方もおります。団地内に建物が建っていない土地があるので駐車できないか。

それと、町有地があったなら貸してほしいという区民からの要望がありました。町は、その対応を考えていますか。町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 議員お尋ねの件でございます。町有地の活用ということでございまして、町有地の活用につきましては、それぞれの地域の特殊事情があるかと思えます。それを考慮して判断していくことも必要であると思っております。

条例においては、普通財産の貸付け等につきましては可能であります。ただ、お尋ねの件になりますと個人という形ではなく、やはり福井団地全体の問題となってきますので、やはり区が主体となってくる案件であるかと町では捉えております。

それで、確かに駐車場となり得る町有地は幾つかございます。ただ、活用していくにつけては、区の皆さんが納得されている場所でなければいけないのであろうかと思っております。そして、仮に実施する方向になっても例えば大々的に舗装までするとか、そのような類いになると少し難しいのではないかと思っております。管理、運用面においても、今後、やはり主体となります区と詳細を詰めていく必要があるかと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 次に括弧2でございしますが、まだ伐採を行っていない町有林のカラマツ、広葉樹の立木を新庁舎の一部に使用する考えはあるかでございますが、カラマツを天然乾燥するには、伐採後、最低でも3年ぐらい。人工乾燥するには約60日必要とするが、伐採と活用計画はあるのか町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 町内の町有林を含めて国有林等々、民有林も非常に主伐の時期を迎えている樹木がけっこう多いという話を聞いております。また、町内の建築業者の皆さんからも是非、木材をふんだんに使った建物を造ってほしいという要望が出てきております。

森林組合からも話を聞きますと、今の強制的な乾燥をさせれば十分材料は間に合うというお話でございますので、今、具体的な基本設計がほぼ終わりつつあって、実施設計を組む段階にこれから移ってくわけでございますが、私もなるべく木材の利用をするような庁舎にしてほしいという強い希望を申し上げます。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 先ほどの町長のお答えにありましたが、事業課として町長からそういう指示をいただいております。

今、申し上げられることは、町有林の活用ということの中でロビーや通路など、やはり町民の皆さんの利用が多いところにつきましては、内壁部分の例えば腰板など、そういう形で利用できないか考えているところでございます。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そういうことでお願いいたします。次に3になりますが、新庁舎建設に当たり、仮に牟礼庁舎旧館を壊すことになれば、遺品として階段の手すり、壁板、床板など使える材料を新庁舎に利用してはどうか。

例えば、昔の建築材は良質な材が使用されています。階段の手すりは、区切り箇所処理をすとか、また床板材はナラ材を使用しているとのこと。そのナラ材は、最高の材でございます。テーブルや椅子にする等、工夫して新たな活用もできると思いますが、仮にその板材等を使用する場合は事前に写真を撮って、使用した箇所に写真を貼り、旧庁舎で使われていた状況が分かるように工夫してはどうかと思いますが町長にお伺いいたします。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） ご提案をありがとうございます。隣の旧館の建物については、いろいろな経過を経て一つの方向を出してきておりますけれども、今、ご提案の使える良い物はやはり何とか使うような形で設計に入れていただければと考えておりますけれども、専門家の考えることですので、使いたくても余りにも使いづらくて駄目ということもあるかもしれませんが、大いにただいまのご提案を参考にさせていただきたいと思っております。

○議長（清水満） 清水議員。

○1番（清水均） 是非、そういうことで使えるところは使うようにお願いしたいと思います。

以上で質問を終了させていただきます。一人ひとりの高齢者が安心して健康で長生きし、皆が集まり生き生き話し合い、安心して暮らせる環境づくりを町民の皆様と行政と議会が力を合わせ、飯綱町づくりを進めていけばと思っております。飯綱町全体が一步一步前進できるよう願いを込めて質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（清水満） 清水均議員、ご苦勞様でした。

以上で本日の一般質問を終了します。